

弓爾乎波係辭弁

078486-000-9

815.7-M893Htm

弓爾乎波係辭弁

萩原 広道/著

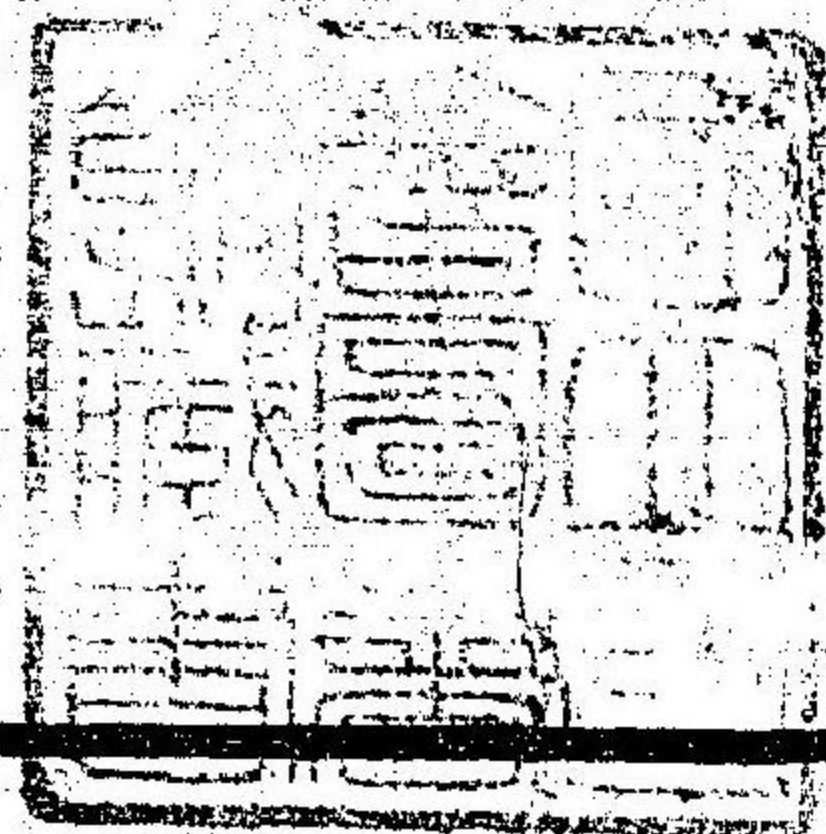
[刊年不明]

DAC-2185



815.7
M893H
m

2157/Myth + m



萩原先生著

て尔
をは
係辞辨



前川文榮堂藏

245111

於ほをそまのそーいあまききやうと
あつそのあまの於ほは係字ひつきた
おのほろそまのあまのそまのそまの
おのそまのそまのあまのそまのそまの
そまの福ゆぬのひあつたれたれ
そまのあけをりれち福字のそまの
そまのけ離波はよるあれあまの
ひまをそまのそまのあまのあまの

○係辞弁

715.7M8P3H+tm

森原先生著

ては

係辞辨



見

於ほをそ由のさう。いふはききやうを
まのあまの於ほは係辞辨といふた
おの本居をさういふはききやうといふた
むのさうのさういふはききやうといふた
その福田ぬのいふたをいふた
さういふたをいふたをいふたをいふた
さういふたをいふたをいふたをいふた
ひよをさういふたをいふたをいふた

○係辞弁

まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
文のしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる

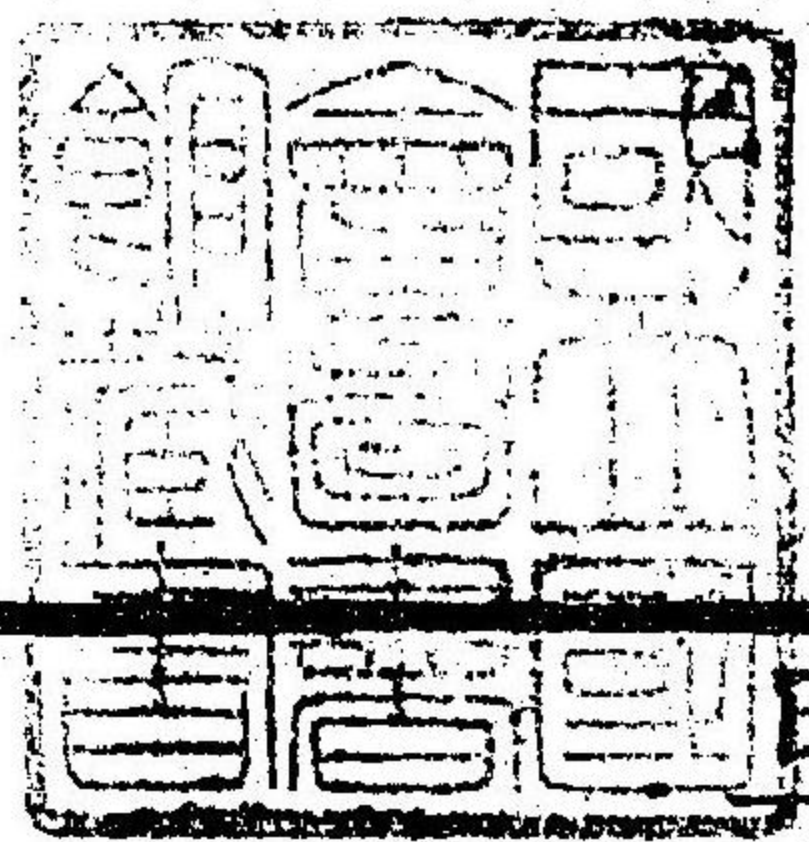
國のふりかたありあまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる
まのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむるまのけしむる

手物おたるはまのりいんかへおとせ
 るまのりいんかへおとせ
 赤いおとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 旗のりいんかへおとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ

せんおとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ
 おとせ、おとせ、おとせ、おとせ、おとせ

且尔乎波係辭辨

萩原廣道 述



係辭とハ先師本居翁の考へ著されたる詞瓊論（註）にてふをハ紐鏡
 此圖（カ）なるより上より係（ト）りてふをトを三條（ニ）小分（ワ）ちく。右行（ウ）をも徒
 中行（エ）ぞのや何左行（オ）こそと奉（ト）られたる類（ニ）を今かりにうく名付（ル）あり。
 此ハ係辭と係（ト）る文字ハ漢籍（ト）ともよにりやなりや大（ト）くこと
 ありきまきまとも。されりの辭（ト）どもを（ト）掛（ト）めく何（ト）いふ（ト）らるるもあはれ
 係辭（ト）ども（ト）の（ト）いふ（ト）らるるもあはれ何（ト）いふ（ト）らるるもあはれ何（ト）いふ（ト）らるるもあはれ
 係辭（ト）ども（ト）の（ト）いふ（ト）らるるもあはれ何（ト）いふ（ト）らるるもあはれ何（ト）いふ（ト）らるるもあはれ

於遺 ゆゑ や で 出 路 く し つ か ら き た 今 一 と も 此 は さ ら し つ と
後撰 あ ら び 川 い つ ら る 勢 方 よ か り ま ん み あ ら る を も り や う り か
万葉 大 文 の う ち ま ま も あ び な す と ら い た の め あ れ よ び 声
堀川 百 ぞ 細 い と ま の 深 じ よ さ ら れ て あ が さ は な 入 ま ら じ ゆ あり
は じ め れ 落 き ま ら つ 云 々 の 奇 ろ う ど た い さ ら る は 徒 なり 其 の 條 と
□ の 中 あ る て ふ を は い り 係 も も と し れ ば い づ も 其 の 結 び な
す は ま ば も の 外 右 此 辞 ど り 徒 の 屬 此 係 辞 あ ら る を 知 ら ざ ら ず 。
○ 次 小 中 行 此 の ハ リ と よ り 平 語 此 を は よ て 係 辞 ハ い ら ん ば や と か
と ハ 反 激 ま ら く 同 類 の 辞 な ら る を 瓊 綸 ゆ と 紐 鏡 も も や と
此 と む ゆ と 奉 ら か を ば や 小 屬 と い は せ ら れ ハ 何 等 の 類

を係辞とえられし誤り。まづいゆたしむのときありし。いれ
らのことハ。てふをハ畧図義解といふ書。委しく辨やくもたれど。より
小ハ省きて唯其のと何とれ係辞よりいづるよりむりといふんのこと
瓊綸三のまよ。のれ結びハ紐鏡中初の段。此辞めてぞや何ならく同
し。と。上に出せ。三精龍のめ。但ぞや何よりいづる。このハ
やく輕さなふ。かの定される格ふを。まづて。結ぶ。いも。また。あ。ら。じ。云。に
とありし。紐鏡もぞや何の條。い。ひとり。に。奉。て。係。辞。と。せ。れ。い。り。
今案。小。こ。ま。先。ひ。が。こ。も。あり。け。ら。此。の。れ。結。び。と。え。ら。れ。し。ハ。い。ひ
こして意を會め残し。畧語の格。い。を。畧。格。と。名。づ。け。て。二。つ。の。格。と。す。る。よ。
こ。ま。全。く。結。び。終。り。し。の。ら。見。え。ら。れ。ば。何。れ。も。奇。ハ。句。の。限。あ。り。て。

後 コトハ

好集 玉垣のしづれ 湊乃 暮あま びりう人 コトヨ

古 今しづれ びりう 暮あま びりう コトヨ

於 みやこ 出て びりう 暮あま びりう コトヨ

中務集 雁乃 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

古 まさしづれ 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

続後集 俊成々 人志れぬ 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

千 夕まじり 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

古 暮あま びりう 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

大和物語 山里に 暮あま びりう 暮あま びりう コトヨ

万 浮雲を 生れ 百木の 梅乃 ちり 花 コトヨ

新 ちり 花 梅乃 ちり 花 コトハ

右に 證哥ども 結辞の下に 印 コトハ

聞えられ 全 コトハ

てよを はめて きりう 暮あま びりう 暮あま びりう コトハ

脈なり ちり 花 梅乃 ちり 花 コトハ

足まじり 暮あま びりう 暮あま びりう コトハ

味も ちり 花 梅乃 ちり 花 コトハ

辞 あま びりう 暮あま びりう コトハ

ぞ やか こと とも け 類 の て ふ を は と 重 あり 時 八 ぞ やか こと の 重 あり 方 コトハ

日 **草** さいふぶれがーてうやうやうなまじらひのうらみはゆるる声する

於 じぶらの花は紫にはなぬての **くさ** あらうほろよりけく

後 我も **ひら** たうーてうたうた **あ** 海は **お** する

六帖 けいめんく **くさ** **ひら** **くさ** **ひら** **くさ** **ひら** **くさ** **ひら**

古 ほんたの **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

日 雑 **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

日 茶 **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

日 東 **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

後 ち **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

右 **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ** **あ**

○係辞弁

コトスネカ

せられバ。何等の遊びよりだが。これ遊びあはせよ。よく味ひつかつて。

古 遊つ衆の中もよふへありて。[あ] [あ] [あ] [あ] 潤津もあは。

新 八重あはらふもかひぬ。[あ] 九重にさうだなり。[あ]

日 友もあはらふもかひぬ。[あ] [あ] [あ] [あ] ひとあはせぬ。

古 ことなるバ。あはらふもかひぬ。[あ] [あ] [あ] [あ] 玉ぎすことある。

六帖 みはあはの浦は。[あ] [あ] [あ] [あ] ばあはひる。

新 きれぞこのもあはらふもかひぬ。[あ] [あ] [あ] [あ] だれ我をきぐぬ。

後於 秋葉乃市も。[あ] [あ] [あ] [あ] ころはるはのつまくも。

煖衣 ひろくもあはらふもかひぬ。[あ] [あ] [あ] [あ] 二たのあはす。

古 いもあはらふもかひぬ。[あ] [あ] [あ] [あ] かくあはの。

日 申さばむらじゆみのゆきを女郎花^{あざな}とて世にさかすむらじゆ^よと

右の哥ども。□印の中ふ片假字^{カタカナ}としてまゝしるゝ如きをいふがれど意

盡^{ツキ}むして治定せむはまばこれハ畧語の格なり。中おもひくよりもある

ト云くのきと申さばむらじゆめとれゆき云くの哥とハむらじゆの辞重^{カタナ}あり

きれば係辞^{ケイジ}よあるざる證^{アかし}とほなる但^レいふものさハいづくのトに

もか^レあまへ^レけしと右行は格ふ結^{ムス}びなり。なごり人もあるん^{この}ハ

係^{この}下^ハよ^ハ。さむらばや^レ下句^カふ^レなごり^トと重^{カタナ}あり^レあま^レむらじゆ^トと

しるゝとバ^レい^レた^レとせん^レま^レし^レ申^レさば^レ秋^ノもの^ハ間^ノぬ^レむ^レ結^ビひ^レと

た^レが^レ格^ノち^ノむ^レい^レと^レは^レて^レな^レ係^ノ續^クと^レ意^トと^レひ^レ

た^レれ^レハ^レ係^ノ重^ノあり^レと^レや^レハ^レ論^ナり^レも^レ考^ヘ入^レと

○係辞弁

く。何。等。八。係。辞。あ。い。さ。さ。る。ふ。ゆ。は。か。く。は。へ。く。け。ん。ま。り。か。な。し。

古。た。ふ。ハ。き。し。形。が。れ。格。も。は。る。な。り。今。ハ。い。が。身。を。あ。ひ。か。き。し。う。ん。

凡。う。れ。も。は。さ。か。の。は。う。さ。ん。か。く。衣。き。の。こ。ゆ。う。に。た。ま。い。り。ん。ま。を。

日。さ。み。ち。が。け。の。路。を。か。へ。し。ま。い。ら。し。め。て。い。ひ。く。も。あ。や。う。し。ら。ん。

日。た。ま。い。り。の。川。あ。ひ。も。れ。を。ま。も。り。保。ち。ん。お。お。の。の。の。の。の。あ。ひ。を。せ。

後。茶。こ。ぬ。も。し。ん。ま。ま。も。も。あ。ま。し。き。ら。く。あ。い。く。さ。ま。か。ら。に。お。の。り。い。ま。え。な。ん。

お。い。づ。う。い。よ。あ。ひ。か。く。あ。ひ。た。ら。ん。世。中。お。お。れ。は。ま。ま。バ。こ。し。ん。も。し。ん。ま。ま。

古。春。り。登。の。と。ま。ひ。れ。時。を。お。し。よ。し。ま。い。く。う。の。で。い。ふ。た。こ。て。ん。

日。ま。ま。し。ん。ま。あ。か。な。ら。ん。櫻。花。ち。の。ま。も。を。い。た。も。も。と。も。ま。い。ら。し。め。り。の。を。

日。ま。ま。し。ん。ま。あ。か。な。ら。ん。櫻。花。ち。の。ま。も。を。い。た。も。も。と。も。ま。い。ら。し。め。り。の。を。

於。送。長。子。

よ。は。ら。し。ら。む。れ。し。ん。ま。あ。い。は。て。ん。い。く。ま。れ。花。の。そ。と。お。お。の。う。ら。バ。

かくれどく。んと激て結て。奇ハいひ竟て。うごくくあれども。たはま
 小ハあつ。何よきと人ハ。譬ふるた物なりといふ言は。何よつ
 まんハ包むた物なりといふ言を。餘く。きく。結びハい
 ひど。餘も准へき。下れんとハ異めて。コトなど
 乃ち。きよん。のトよ。試て。調へる。きん。いん。ん
 中。ち。あ。ん。ハ。切。の。あ。續。する。辞。あ。よ。直。續
 き。聞。知。右。ハ。切。辞。中。ハ。續。辞。あ。ん。ハ。右。中
 又。未。の。らん。きん。なん。て。ん。ち。ん。係。も。く。辞。ハ。印。つ。て。ふ。ん。は。ど。も
 より。語。脈。續。さ。る。其。らん。きん。等。ハ。右。行。徒。の。部。れ。らん。きん。よ。て。中
 行。ぞ。や。か。た。の。類。れ。は。び。ハ。ら。く。右。の。證。奇。中。に。あ。か。つ。ん

○係辞弁

りんごう〜格とら〜をきりやんと申してゐる。変格とりよゝんは
あまの〜。実^トはら〜な〜。自餘^トをも決^キ格とらひびが
したご〜。皆^トかの位^ト等を係辭^トと〜の誤
なり。其^ト奇^トな〜。

後 ふ〜音のみれ〜
コトヨ

か〜あ〜の非^トは〜
コトヨ

古 けい〜の格^トは〜
コトヨ

後 末ハ花^ト秋八月とちだり〜
ハヤ

後 ひ〜の路^トは〜
カナ

詞 あ〜やな〜
ナリ

新 梅^ト香^トをの〜
コトヨ

源氏^ト いのせ〜
コトヨ

ま〜の〜
コトヨ

〜の意^トを〜
コトヨ

末^トの〜
コトヨ

〜
コトヨ

〜
コトヨ

〜
コトヨ

〜
コトヨ

語の格^トな〜
コトヨ

ちりも末の「下」とあるまじきもの。そなたは「しるふ果」たるぬきまじき「下」
 玉葉 いろふせん「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」なる「下」
 この「下」は「しるふ果」の下に「しるふ果」ありて「しるふ果」は「しるふ果」の「下」
 まじく上へかゝるハ例ありて「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」
 こと「しるふ果」あり。はれど「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」
 於 かしは「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

こまにハ初句の「下」に「下」とあるまじきもの。そなたは「しるふ果」たるぬきまじき「下」
 ひびき「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」
 難なり。瓊綸注も「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」
 格ひまじき「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

此は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

て「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

源氏 かしは「しるふ果」なる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

末掲 此哥ハ末の「下」とあるまじきもの。そなたは「しるふ果」たるぬきまじき「下」

期題兼 この「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

秋邊 秋霧の花散れたる「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

君 上の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

伴 より「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

あはれ 下の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

さう 下の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

しるふ 下の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」は「しるふ果」の「下」

読古今いろはに秘してあるをよめて人の心をつかふあるを秘風ぞかく
此コトいろはにふといひく。切キるをなくぞといふハかれをば秘風の
あゝきをえてよろし。と注せられしなり。だもものといふところ。調シヨウがあるひ
て聞ゆれど。何ナニを係辞とせざんば格のうちなる也。

新統
古今

新統ある本家のいろはをよめて秘風とよめる風ぞ。あやしむ

瓊綸注小。

こまハ秘風とよめといふことを。外山トウヤマハいろはをよめてたふれバ

ぞもいろはにふといひく。ハ聞えられども。秘風ヒフウの重オモいハ宜ヨシしうだ。風

のあやしむをよめてあやしむとよめ。今案イマオモフに秘風ハあやしむである。

を。のを係辞とせざんば秘風とよめ。秘風ハあやしむとよめ。例の如くハ末小

コト。たふの意をいふといふハあやしむとよめ。とよめ。かたあひ

コト。後

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

秘風ハあやしむとよめ。あやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。秘風ハあやしむとよめ。

ほれたらなり。次のちハ舊本のまゝあるべし。たの下の「入上」といふ
 を抄くるとある。されど藤井氏の新釋ハ、朱雀院塗籠本といふ
 條にて、なるといふのが、ハ論なり。はるをよめるかの新釈ハ、あつた
 下。入といふのめをいひ、ハ一きりつと釈る。なるといひ、ハ一きりつと
 ちのむび給ひ、ハ一きりつと格よまむ。ハ一きりつと一きりつと
 するといふ。キとふいふ。ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 貫集きりつとの著せ給ひ、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 曰 せしむるや、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 此の格ハ二つあり。ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 長可も、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 例あり。ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 上の「ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと」
 間遠なり。

あつても、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 小聞を、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 ぬ、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 誤あり。

い集 ふうんハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 これめハ切ま、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 一と注せられ、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 たり、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 後、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと

このか、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 こ、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと
 時世の上、ハ一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと一きりつと

鏡抄はふがをいふにすればむをはしむとももよるもらぬら
此哥いふを係辞とせざれば其くこの誤とハなさればはむもせ
ハ聞らぬをみよむ論小及び後環論小後ふべ一此外をも。変格と同く
く不調哥として。

古 昔一たう方もかてしつらひとてかたかたはしつるもみよるも
後 昔一たう方もかてしつらひとてかたかたはしつるもみよるも
新 ありつてかたかたはしつるもみよるもみよるもみよるも
新 遣こぬ人をさうかぬの極めよるいかにいかにききびん
日 夕あやよきいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
日 夕あやよきいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

此類を挙て、変格の例をいふべしとて、注せし
ましつらふ。さむもいふ人をさうかぬの極めよるいかにいかにききびん
十ゲキ 歎息は意あつて決りりつらひも、例をいふべしとて、注せし
ゆゑに、いふべし。中ふと古今集の昔一たう云々の哥ハ、何のいふは
かゝれば論をいふべしとて、注せし。然るも、いふべしとて、注せし
云々の哥より下。此外は、不調哥をいふべし。例の「コトヨ」「ハヤ」なるも、ききつらひに例をいふ
まはば、注せし。そのまはば、いふ定めづ。

○ぞとこそとハ同ド類の辞あるとぞハとふ對入。語勢や、輕さ
故に中行は結び。とて、いふと重さゆゑ、左行は結び。とて、いふ此差とゆゑ
きり。ぞとこそとハ、いふと重さゆゑ、左行は結び。とて、いふ此差とゆゑ
きり。ぞとこそとハ、いふと重さゆゑ、左行は結び。とて、いふ此差とゆゑ

○係辭弁

こし^{サレ}の意^イは指示^{サシ}—^キき^カらなる辞^ジなれば^バ。決^キめて動^カくせ^シた
 やし^イの處^{トコロ}もあ^ハる。語^ゴ勢^セの抑揚^{ヨウヤウ}をさ^スりしむ^ルてふ^クはたし^メる。いまハ
 や^クぐて清^スていひ^クらりとわ^ケづ^ク。日本^{ニッポン}紀古事記萬葉集^ニ其餘^ノの古書^{コショ}
 どうにもいづれも清音^{スミナガキ}は曾^{ソウ}字^ジを用^{モト}ひ^クらひ^ク。け^レとも中昔^{チカキ}よりい^キづ^ク濁^{ニグ}
 て唱^ナふ。や^クし^イふた^ヘり^クハ清^{スミ}てく^ルは語^ゴ勢^セの輕^カろ^クな^ル。い^キづ^ク
 濁^{ニグ}と來^キてもあ^ハる。—^ニ此^{コノ}字^ジ其^ノ字^ジの意^イは辞^ジを二^ニつ合^マせ^クて^ハ
 —^ハ此^{コノ}即^チて其^ノありと申^スる^ノ指示^{サシ}—^キき^カらなる^ノあ^ハり^クぞ^トよりハや^ク重^{オモ}
 くせ^キら^ルら^ズる^ノ辭^ジも。抑揚^{ヨウヤウ}も—^ハ強^{ツヨク}く^キて^ハけ^レあ^リ。又^マあ^レを願^{ネガ}
 ひ^クら^ズる^ノ用^{モト}ふ^ノハ。此^{コノ}其^ノを^ヒら^ズて近^{チカク}我^ガ物^{モノ}小^コせ^スる^ノ意^イはな^レ
 ば^ナら^ズ。萬葉集小^コ與^ヨ其^ノもあ^ハる^ノハ。其^ノを與^ヨへ^ルて^ハき^カらなる^ノ

てあ^ハる。—^ハ香^カの幸^{コウ}ハ香^カと畧^{リョク}圖^ト義^ギ解^カし^テい^キな^レば^バ。—^ハ五十音圖^{シフヂチヨウ}の位^イ置^チか^ルに^キの^シら^ズる^ノ詳^クに^ハ書^カけ^テ書^ク
 みの^シら^ズる^ノ係^{ケイ}辭^ジの^シら^ズる^ノ詳^クに^ハ書^カけ^テ書^ク。今^{イマ}ハ^レち^ハお^ハた^テが^の瓊^ユ論^ロ小^コ出^デれ^ルに^ハさ^シら^ズる^ノ意^イ
 中^{ナカ}に^ハい^キづ^クに^ハさ^シら^ズる^ノ條^{ジョウ}もあ^リ。か^つて論^ロ—^ハ試^シん^ズる^ノ意^イはな^レ
 用^{モト}ひ^クら^ズる^ノ意^イはな^レ。瓊^ユ論^ロ—^ハ香^カの幸^{コウ}と^ハ明^{アカ}ら^ズる^ノ意^イはな^レ。け^レとも先^マづ^クの^シら^ズる^ノ意^イ
 い^キづ^ク。本^{ホン}書^{ショ}もい^キづ^クに^ハさ^シら^ズる^ノ意^イはな^レ。

後 あひ^テい^ハな^レば^バ—^ハ松^{マツ}川^{カハ}

後^ノ松^{マツ}川^{カハ}—^ハ後^ノ松^{マツ}川^{カハ}

後松 おあ^ハる^ノ意^イはな^レ。

まじつよはづ准へくおもはざ。其ゆにまじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
激辞ハ疑ひのかよわぬ。狂くせしめしめたり。のかよでぞハ。激反りて辞。其ゆにまじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
を添て。こよより係カと

重ナと語勢カをこよにて。かた合ハ。こよにまじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
ハ疑ひのかよわぬ。狂くせしめしめたり。こよにまじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
必激辞をこよ。但ハ。こよにまじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

新

この教あり。まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ
まじつと結ぶ格ハ。過去のまじつ

出石居藏板

皇漢洋今古書類自家積年蒐求其集
藏帝二充棟載申、夥、三、二、人、品、位、精、工、價
程清廣以テ四方君子、愛顧、待、以

文榮堂藏版

東區橋ノ寶壽寺西ノ丁、長十九番屋敷

阪府書林

前川善兵衛

